

# 氷川町 特産品紹介 いちご



よのか」「心のしずく」を栽培しています。熊本県内はもとより、広島・神戸・大阪・京都・名古屋に出荷を行っています。

現在、和鹿島いちご部会は部員数88名、面積が33・4ヘクタールで、県内で第2位の有数な産地になっています。部会の特徴は若い後継者が多いことです。40歳以下の若い後継者が部員数の半分以上おり、市場からも重要な産地として注目されています。これからも若い力で益々信頼される産地を目指して頑張ります。

氷川町（旧竜北町）でいちご栽培が始まったのは網道の齊藤貞市氏が昭和29年に「宮崎」という品種を栽培されたのが始まりで、昭和42年に「春の香」が導入されてから本格的に始まりました。昭和47年に和鹿島いちご部会を設立し、昭和48年からは、航空便による東京市場への出荷も行っています。「空飛ぶイチゴ」で一躍脚光を浴びた時期もあったそうです。昭和59年からは「とよのか」が導入され、現在は、「とよ



## 表紙の ひとつ

2月3日、厳しい寒さのなか、第8回町民体育祭冬季大会グラウンドゴルフ競技が竜北グラウンド及び桜ヶ丘グラウンドで開催されました。

皆さんの元気で澆刺としたプレーが見られ、特に珍プレー・好プレーの一打に大きな歓声があわき、ホールインワンが出るハイレベルな試合が繰り広げられました。

会場は和気あいあいのなか、寒さを感じさせない熱い戦いで大いに盛り上がり、元氣なプレーに大変感動いたしました。皆さんお疲れさまでした。



## 編集 後記

日本列島は年末からの寒波に見舞われまして農作物の生育不良により野菜の値段が高騰し食卓に大きな影響を与えましたよね。また、今年に入り石油の値上がり、おまけに給料は上がらない状態で私達の生活はどうなるのでしょうか。政権交代で安倍首相はデフレ不況から早い時期に脱却することを目指し、経済対策費用として13兆1千億円の24年度補正予算を閣議決定しています。今年の干支は巳年で蛇は脱皮をすることから「復活と再生」と言い伝えあり、地方がどれだけ経済発展するか期待したいですね。

また、巳年は商売繁盛や金運にご利益があると言われていますので、皆様のご繁栄とご健康を願うものです。

議会広報誌の紙面づくりに一層の努力を傾注して参りたいと存じますので、皆様のご支援・ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

### 議会広報調査特別委員会

委員長 永田義昭  
副委員長 坂本悦男

委員 三浦賢治  
委員 上田俊孝